

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

農学部生物環境システム学科助教授： 小原 廣幸 先生

カナダキャンパスプログラム参加中の「全人教育Ⅳ」での活用

農学部のカナダキャンパスプログラムは約4ヶ月、玉川カナダキャンパスを基点に環境生態調査を含む専門科目の授業や語学研修を行います。ホームステイをしながら現地のマラスピナ大学の講師によって授業を受講、調査研究や実験・実習を展開します。一方、参加期間の2年次は「全人教育Ⅳ」が必修科目。カナダのナナイモ校地に集まる授業時間を軸に、礼拝・宗教講話はもちろん、玉川で実施している「全人教育Ⅳ」の講話を録画してストリーミングビデオ配信をするなど、担任と引率の先生方が協力し、Blackboardを活用して実施。今回はその活用事例をご紹介します。



科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆ 科目名：全人教育Ⅳ（2年生30名）
- ◆ 授業の概要：全学共通科目の全人教育Ⅳは礼拝・宗教講話・講話や担任指導など。カナダプログラムは「2年次の9月～12月」「3年次の3月～7月」の2グループに分け、実施。現在実施中の学生は2年次秋学期。「全人教育Ⅳ」の受講対象の学生でもある。担任は玉川キャンパスにおり、国内プログラム参加中の担任でもあり、国内の担当科目の講義も担当。学生たちは一週間に2度ナナイモ校地に集まるうち、火曜日1時限目を軸に、玉川にいる担任とカナダへの引率者と相互に協力しながら、Blackboard@Tamagawaを活用し、授業を運営している。

欠かせない渡航前の集合研修

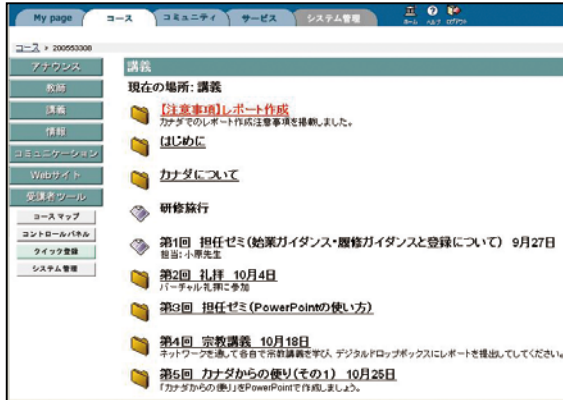
農学部の学生としてフィールド研修や研究のためにノートPCやデジタルカメラは必須。カ

ナダプログラムを前にして必要に迫られてはじめてMyPCを手にした学生もいれば、以前からパソコンが得意な学生まで、様々。しかも、MyPCの経験があってもウイルスチェックをしていない学生もいる。カナダで必要なソフトウェアの準備を、活用を想定してメディア教育推進室に依頼して、渡航前に集合研修を実施。ウイルス対策の方法やフィールド調査で撮影したデジタルカメラの画像をレポート活用にあわせた解像度に縮小する方法などを、自分が日常使うMyPCで実際に自らの手でチェックする時間を設けた。またBlackboardを通して訪問国の情報収集、たとえばカナダ事情（国旗や国歌、安全等）を学びつつ、あわせて操作を体験。

全人教育の内容

カナダ滞在期間はわずか4ヶ月だが、文化の差の中で学生たちは大きく成長する。礼拝と宗教講話をビデオ・資料同期教材で提供、全人

教育の担任指導の領域は時間内では収まりきらないが、それでも引率者との協力のもと、キャンパスの生活以上に密接な指導もできる。ただし、全人教育Ⅳの内容の中で、特に礼拝や宗教講話は事前に非同期の動画を使った教材を作成した。



全人教育Ⅳ 講義内容

ただ、学生たちのホームステイ先からのネットワークの状態は、アクセス環境を持たない家庭など様々である。そのため必要最低限の内容はナナイモキャンパスに集合した時間を用いて行い、個々の課題やローカル上での作業は各自実施することにした。

パワーポイントの必要性

全人教育の科目の必須要件ではないが、帰国後に PowerPoint を使ったプレゼンテーションを行うことから Blackboard に PowerPoint 操作方法教材の掲載をメディア教育推進室にリクエストした。現地の講義内容は PowerPoint ファイルで提供され、それ

を予習して授業に臨まないと講義についていけない現実を考えると、帰国後の活用より現地での活用に大いに役立った。また、担任あてに PowerPoint で「カナダだより」を出す想定をしたので、PowerPoint を使ったことがなかった学生もカナダでの生活の様子を課題提出してくる。これら実際に活用する方法は副産物として、予想以上に PowerPoint の操作習得に有効だった。

今後のカナダプログラムについて

次年度のカナダプログラムは生物環境システム学科 2 年次の春学期から始まり、渡航の学年が半年早まる。現在マラスピナ大学での講義は事前教材の配付をメール添付で受けている。同大学構内はインターネット環境を活用できる状態であり、Blackboard を活用して事前資料配付だけでなく、アナウンスや授業資料の提供を受けることができれば、学生たちの学習の理解度はさらに進むと期待できる。Blackboard は多言語対応なので実現可能だと考える。また次年度は「玉川キャンパスの教員が在カナダ学生に講義」と「カナダキャンパスの教員が玉川キャンパス学生に講義」が相互に展開できるようにと、ライブ講義を計画し、準備を進めている。ライブ講義も遠隔で限られた時差と時間の中、事前・事後の資料を掲載し補完教材を利用するなど、Blackboard の活用が成果につながると期待している。

Blackboard@Tamagawa Release7 への

02

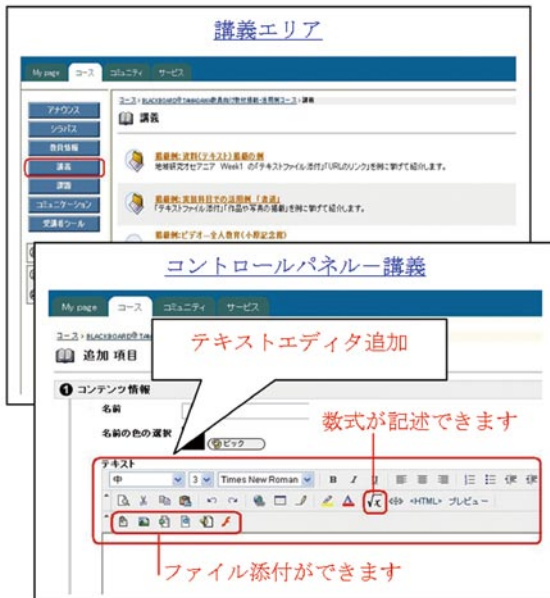
バージョンアップのお知らせ

2006 年春学期より、Blackboard@Tamagawa のバージョンが、現在の Release 5.7 から Release7 へ変更になります。今までのユーザーフレンドリーな機能はそのままに、より使い勝手がよくなりました。Blackboard@Tamagawa Release 7 (以下、Bb) の基本機能と併せて、新機能・バージョンアップによって使いやすくなった点をご紹介します。

1. Bb の特色

- (1) 操作が簡単・・・特別なスキルを要求されず、コースごとに必要な機能だけを組み合わせる使用できる。
- (2) どこでも利用できる・・・ネットワークにつながる環境であれば、特定のソフトウェアが必要ない。
- (3) マルチ言語対応・・・同システム内にて複数の言語を利用できる。

2. Bb の主な機能



- (1) 教材掲載：簡単に掲載できます。【より便利に】

ファイル添付、映像・音声・画像の挿入、ハイパーリンクの設定なども行うことができます。さらに、既存コンテンツをフォルダーごとにコピー＆ペーストすることが可能になりました。コンテンツを他のコースにコピーし、活用することもできます。

(Windows 版 IE6 以上のみ対応)

- (2) テキスト、HTML、数式エディタ機能【新機能】：

編集画面にテキストエディタが追加され、文字の書式設定、数式の記述がより簡単な操作で行えるようになりました。HTML タグを入力することなく、文字の装飾、数式の記述が可能となりました。

(Windows 版 IE6 以上のみ対応)

- (3) コミュニケーション：

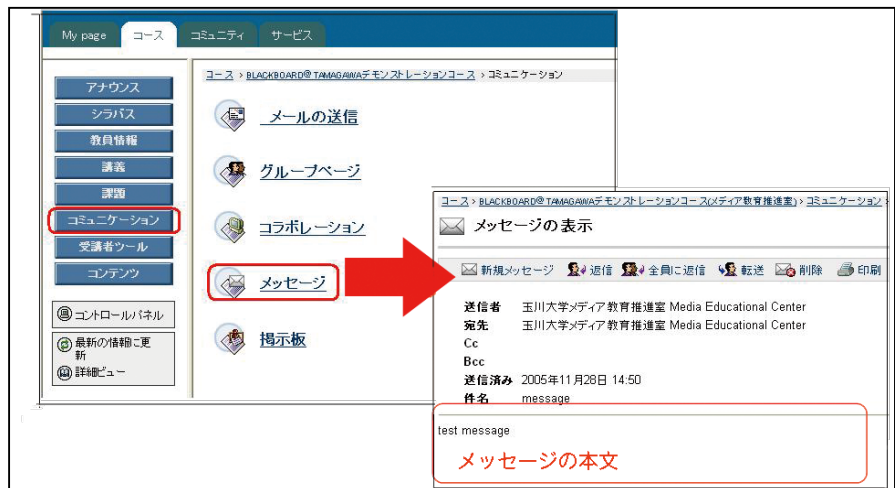
■ eメール送信：コースに登録されている全受講者、または任意の受講者を選択し、eメール送信ができます。

■ メッセージ【新機能】：

コース内メール機能が追加されました。Bb コース内で、メッセージの送受信が可能です。また、送受信済みメッセージを確認することもできます。(送信対象者はeメール送信と同様)

■ ディスカッションボード：フォーラム、ディスカッション、Q&A に活用できます。

■ グループ：グループ編成をして、コース内にグループ用のページとコラボレーション機能（ディスカッションボード、グループファイル交換、グループeメール、グループメッセージ）を与えることができます。



- (4) アセスメント【より便利に】：

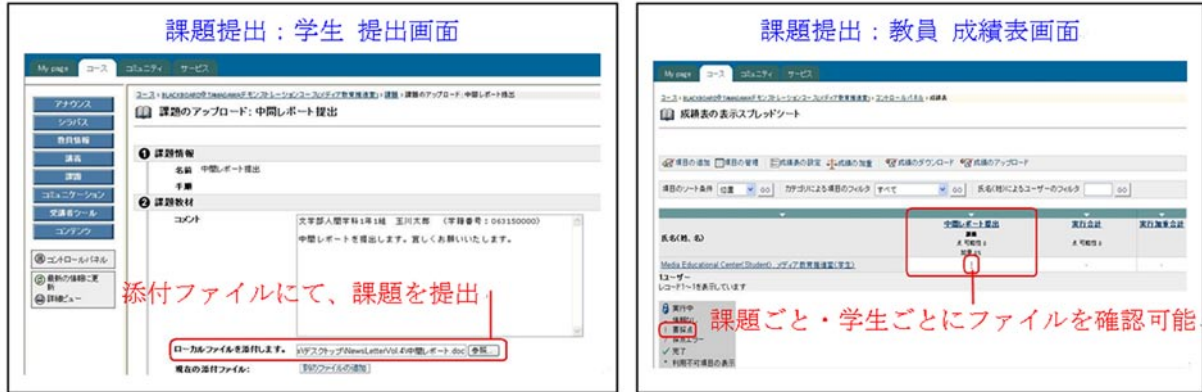
テスト、クイズ、アンケートを提供します。エッセイ問題を除き自動採点も可能。オンライン成績表と連動し、教員の管理の負担を軽減します。

※ 青字は、新機能または改善機能

- | | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|
| ■ エッセイ | ■ ショートテスト | ■ ファイル応答 | ■ ホットスポット | ■ マッチング | ■ 穴埋め問題 |
| ■ 式計算 | ■ 数値計算 | ■ 正誤問題 | ■ 選択問題 | ■ 多肢選択 | ■ 短答式 |
| ■ 価値尺度/リッカート | ■ 複数解答 | ■ 複数穴埋め問題 | ■ 文の並べ替え | ■ 並べ替え | |
| ■ ランダムブロック | | | | | |

(5) 課題提出【新機能】:

ファイルを添付し、課題レポートを送信させることができます。提出されたファイルは、課題ごとに保存され、成績表から確認することができます。また、成績表にて教員から学生へのフィードバックが行え、学生は自分が提出したレポートや教員からのコメントをBb上で確認できます。



(6) コースメニューの自由設定【新機能】:

メニューを任意の名称へ変更できるようになりました。また、表示形式（ボタン・テキスト）およびツリー型詳細表示の選択ができます。

(7) パフォーマンスダッシュボード（掲載コンテンツ確認）【新機能】:

コースに掲載したすべてのコンテンツタイトルを、ツリー状に表示させ、コンテンツの表示・非表示の設定確認ができます。

ボタン（従来同様）→テキストメニュー → 詳細ビュー

パフォーマンスダッシュボード



編集後記

Blackboard@Tamagawa のバージョンアップにより、課題回収や教材のフォルダー単位コピーなど、より使い易く進化します。12月：おためしコースの案内、2006年2月から：操作説明実施、3月本サーバー稼働を予定しています。スタッフ一同、今後も誠心誠意、サポートに努めます。

e-Education NewsLetter 2005 Vol.4
2005年12月発行

玉川学園・玉川大学
情報システムメディアセンター メディア教育推進室
東京都町田市玉川学園6-1-1
Tel : 042-739-8820
Fax : 042-739-8825
eメール : dlhelp@tamagawa.ac.jp
URL : http://blog.tamagawa.ac.jp/e-education/